

# 榊原病院

## Vol.17

### 2016.September

# Monthly

独立行政法人 国立病院機構  
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital  
榊原病院  
発行者 榊原病院企画課

## 院長

村上 優(むらかみ まさる)  
1949年生まれ

74年九州大学医学部卒  
86年国立肥前療養所精神科医長、2002年同療養所臨床研究部長、  
同年King's College London Institute of Psychiatry(司法精神医学研究所)長期研修。  
2005年花巻病院臨床研究部長(併任)、2006年琉球病院長を経て、2014年榊原病院長に就任。  
日本司法精神医学会理事、日本アルコール関連問題学会監事。  
NGOペシャワール会の会長として活躍。



## 診療科

- 一般精神科
- アルコール・薬物依存症 専門外来
- こころのリスク外来

## 病床数

176床

- 精神科病棟 158床
- 医療観察法 18床
- 認知症ユニット
- アルコール・薬物依存症ユニット

## 病院理念

この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

### 〈共に生きるということ〉

相模原の施設で起こった事件のおぞましさは言葉では表すことができません。2001年に起きた池田小学校事件を思い出します。最も弱い立場にある者が被害者であり、一方的に命を奪われる不条理、さらにそれに精神科医療のあり方が問われていることに黙ってはられません。障害を持つ人々との豊かな共生が語られねばと思いました。

そのある日、鈴鹿山脈の御在所岳に登るために登山靴を履いていると、少し森がざわついているので目を上げてみると一匹の猿がこちらを見えています。目をこらすと他にも猿がいる気配があり、しばらくすると次々に近くを通り過ぎていきます。生まれたばかりの赤ちゃんを背中に乗せている母親猿も何匹もいますし、この赤ん坊も時々母親から離れてその辺を遊びながらまた母親につかまり通り過ぎますが、その動きのかわいらしいことや自然さが印象的です。猿といえども四つ足で歩いている中で、後ろ足で坂をピョンピョンと飛ぶように歩く猿がいました。いわゆる二本足歩行です。時々柔かい木の葉を食べていますが、他の猿より小柄で木に登るような仕草はありません。その動作の奇妙さによく見ると前足というか、手が小さく前腕にあたる両腕がありません。アザラシ肢症といわれる身体奇形です。それでも器用に葉をとって口にしています。私の前を二本足でピョンピョン歩いて、目が合っても別に気にするでもなく、焦って逃げるでもなく通り過ぎていきました。その後ろを顔やおしりがひとときわ赤い大きな雄ザルが過ぎていきます。ボス猿なのでしょう。初めて自然な猿社会の姿の一旦を見たのですが、一番の驚きはその中に両腕を持たない障害を持った猿が自然に家族の一員として存在している姿です。確かに小さく食料を他の猿ほどは取ることはできない、木を自由に登り栄養がある木の実を食べることができないのでしょうか。ですが群れと共に自然に過ごしている姿に、猿の世界で厳しい自然の弱肉強食にあってこの共生の姿に見とれました。

時間にして5分ぐらいのものでしょうか。最初に気づいた若い偵察猿、乳飲み子を抱えた母猿、二本足で歩く障害猿、それらを守るボス猿から構成される20匹強の群れでした。そのすべてが自然な光景です。共生せねばという意識もなく、当たり前のこととして生活している猿の社会。猿の威厳ある姿に対して、それに劣る人間の仕事を振り返るひとときでした。相模原の事件を思い、その後の様々な報道をみると、「多様性や共生」を置き忘れた人間を思いおこします。障害があることも、そうでないことも自然に共にあることを猿の社会は見せてくれました。

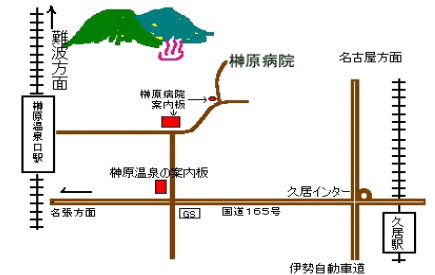
## トピックス

行事・出来ごと

教育・研修

- アルコール家族教室(5/26,6/9,23,7/7,21,8/25,9/8,29,全8回13:30~14:50)
- 平成28年7月より、デイケアを週3日から週4日に拡大しました。
- 「包括的暴力防止プログラム(CVPPP)指導者養成研修」平成28年10月24日(月)~27日(木)
- 寺子屋・榊原塾「今日の精神医学と医療」の開催のお知らせ  
・9月16日(金)17:30~19:00 テーマ:精神保健福祉  
特別講師 三澤孝夫 国際医療福祉大学講師

榊原病院ホームページ QRコード



電車・バス / 近鉄久居駅下車、三交バス(榊原温泉口駅行)にて約30分。榊原口バス停下車徒歩約10分。  
自動車 / 久居インター(伊勢自動車道)より西へ約20分  
マイクロバス / 久居駅より直通バス(約25分)

## 地域医療連携室だより

### 〈図書ルームからのお知らせ〉

患者様・ご家族様に、図書を通じて病気や医療・福祉の情報を広く知っていただき、回復への志向・治療に取り組む意欲を高め、治療に参加し、治療者とのより良いコミュニケーションにつながればと考えています。

入院患者様は自由散歩の時間を利用して、ふらっと寄ってパラパラと見て帰る方、しっかりと読み込んで帰る方など様々です。 開設時間：第2月曜日11時～12時



空床状況  
9月1日現在

精神科病棟
32床

## 訪問看護

当院の訪問看護は、退院後地域で安定した生活が送れることを目標といたしております。退院後の課題といたしましては、大切な薬を中断してしまうこと・生活リズムを守れず昼夜が逆転してしまうことやお金の管理が上手くできず使いすぎて生活に困る等の病状がみられます。

これらの症状の悪化に伴い再入院する方が多くなっております。患者様と家族の困ったことについて、地域の方々の支援を受けながら一緒に考え、安定した生活ができることを目標としております。

## 治療抵抗性精神疾患への医療

### 〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、平成28年8月までに全症例は35例となりました。8月の新規導入は2例でした。9月も順次投与を開始する予定です。

また、今後クロザピン専門外来の開設についても準備を進めていく予定としています。



## 認知症医療・アルコール・薬物依存医療・こころのリスク外来

### 〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に、認知機能が低下した方、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害のある方は、若年の方にも見られます。したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方にも見られます。身体的な問題については、三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。

一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

### 〈アルコール・薬物依存医療〉

適正な飲酒量とはどの程度かご存知でしょうか？「節度ある適度な飲酒」とは、純アルコールで1日約20グラム程度、つまり日本酒なら1日1合、ビールなら大瓶1本だけなのです。日本酒3合では健康に悪影響の出る「多量飲酒」（健康日本21）と言われています。もし減らすことが難しいという方がおられましたら、外来・入院での治療プログラムにてご協力させていただきます。平成27年4月から当院のアルコール・薬物依存症治療のプログラムをリニューアルしました。

お一人で、ご家族だけで悩み解決しようとするのではなく、まず専門スタッフへお気軽にご相談下さい。ご自分だけで抱えずに相談することが、病気を回復する第1歩です。

### 〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われています。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



## デイ・ケア案内

デイケアは毎週、木曜日を除く週4日、北病棟3階作業療法室奥で実施しています。実施時間は9時30分から15時30分です。

朝から参加するのは大変だという声もありますが、朝から起きて活動する場所として活用して頂きたいと思っております。昼食づくり等の新しいプログラムも行います。参加希望の方は主治医またはデイケア担当者にご連絡下さい。

主な内容：症状自己管理教室、スポーツ、クッキング教室、カラオケ、など  
デイケアのパンフレットを外来待合室に置いてあります。また、病院ホームページに月間プログラムもあります。お気軽にお問い合わせ下さい。



榊原は自然がいっぱい！  
お話しながら歩きませんか？



大人気のクッキング教室で、  
カレーライスを作りました。

## 近況だより

### 榊原病院夏祭り

夏の風物詩である榊原病院夏祭りを8月2日(火)に開催しました。

昔懐かしい盆踊りや演歌に合わせて鳴子を使った踊りにも挑戦しました。踊りの他にデイケアのコーラス発表や地域の方によるマジックショー等の余興もあり、賑やかな夏祭りとなりました。

ボランティアの方の協力もあり、たくさんの患者様が浴衣を着て参加することができ、「浴衣を着たのは久しぶり！」、「昔浴衣を作ったのを思い出すわ。」等の声も聞かれ、楽しいひとときとなりました。

